

「～知・徳・体による防災教育の推進～」

平成 24 年度 高知県実践的防災教育推進事業 拠点校 黒潮町立南郷小学校

I 学校における背景、問題意識

平成 23 年 3 月に起きた「東日本大震災」では大津波により多数の人命等が失われた。

また、平成 24 年 3 月には国の新しい想が発表され、本校のある高知県黒潮町ではM9の地震が起こった場合、最大 34.4 mの大津波が発生する恐れがあると報告された。

校区は、東より浮津・鞭・奥湊川・口湊川・小川・七区・弘野の 7 地区からなっている。浮津や鞭は国道 56 号線沿いに、鞭上は海岸段丘にある。また、口湊川・奥湊川・小川はそれぞれの川に沿って集落をなしている。そして、本校は海拔 6.6 m、海からの直線距離 670mの所に位置し、30 cm津波の到達時間 23 分、最大浸水深 11mと想定され、南海トラフ地震が発生すれば、非常に甚大な被害が予想される地域である。

こういった状況の中、本校は児童の命を守るための防災教育を地域や防災関係機関と連携を図りながら、積極的に推進することにより、自分の命を守るため児童一人ひとりが「主体的に行動する態度」を総合的に育成する必要があると考えた。

II 取組のポイント

学校教育目標

「自ら学び、すすんで行動できる
子どもを育てる」

～なかよく かしこく たくましく～

上記の学校教育目標に基づき、下記のような防災教育目標を決定し、防災教育に取り組んだ。



防災教育目標

主体的に行動し、
自分の命は自分で守ることができる力をつける
～知・徳・体による防災教育の推進～



- ①児童の意識・実態調査による課題の明確化と防災意識の向上
- ②児童が主体的に行動できるよう、様々な場面を想定した避難訓練
- ③校区・地域の自然環境や防災体制についての知識・理解を深める学習
- ④自分たちにできることは何かを考えた炊き出し訓練（飯盒炊爨）
- ⑤学校防災マニュアル等の見直し
- ⑥各学年の学習内容の中で『地震・津波・防災』に関連する授業研究
- ⑦日常的な取組や防災教育研究発表会等を通じた町・県内の学校等への普及・啓発

【知育】…あらゆる災害から「子どもの命を守りきる」ため、児童が臨機応変にその場に応じた行動をとるための知育

【徳育】…避難訓練等に真剣に取り組むための徳育

【体育】…どんな悪条件においても、安心・安全な所まで逃げ切るための体育

※実践と座学を通して、バランスよく総合的に取り組むことにより、児童一人ひとりが自分の命を守りきる力を育成する。

Ⅲ 取組の概要

自分の命は自分で守ることができる力をつけるために、以下のとおり年間の取組を計画し、実施した。

月	実施事項
4	<ul style="list-style-type: none"> ・防災年間計画の見直し(学校) ・新避難道の確認
5	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の意識・実態調査アンケート ・参観日〈親子避難訓練〉 「第1回南郷の子どもを育てる会」 ・避難訓練① 朝ランランタイム
6	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練② 昼休み ・公開授業：道徳参観日（全学級） 生命尊重の視点での道徳の授業 ・避難訓練③ 帰りの会 ・防災職員研修 「釜石の奇跡」DVD視聴 ・炊き出し訓練 ・防災アドバイザー派遣事業 防災学習講演会 講師：高知大学 松岡 准教授 ・学校防災マニュアルの見直し ・黒潮町内の緊急地震速報の学習
7	<ul style="list-style-type: none"> ・保小中高一貫合同避難訓練（黒潮町入野地区） ・避難訓練④ 掃除中 ・地域防災の取組に参加 危険箇所チェック 防災会議 避難訓練 ・避難訓練⑤ ランランタイム
8	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育職員研修に参加
9	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練⑥ 昼休み ・着衣水泳 ・防災授業（全教職員） 「南海地震に備えちょき」のDVDを活用した授業 ・避難訓練⑦ 掃除中

10	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練⑧ 帰りの会 ・避難訓練⑨ ランランタイム ・災害シミュレーション活動・防災マップづくり ・道徳 研究授業(5年生) 「おばあちゃんからもらった命」 ・「第2回南郷の子どもを育てる会」 ・特別支援学級の研究授業 「こんな時どうする？地震編」
11	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練⑩ 昼休み ・起震車体験学習 ・避難訓練⑪ ランランタイム ・炊き出し訓練
12	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練⑫ 掃除中 ・避難訓練⑬ 朝の時間
1	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練⑭ ランランタイム ・避難訓練⑮ 昼休み ・「第3回南郷の子どもを育てる会」 ・児童の意識・実態調査アンケート 1回目との比較による取組の検証 ・避難訓練⑯ 帰りの会 (臨時避難訓練) ・実践的防災教育研究発表会 公開授業・参観日・講演会 防災の視点を取り入れた授業の公開と講演会

1 避難訓練

- 避難に対する児童の主体性の構築と体力の向上を図る
- 様々な場面を想定した避難訓練の実施

朝のランランタイムや昼休み、掃除中、帰りの会等、様々な場面での避難訓練を毎月2回実施した。

回数を重ねるごとに避難の時間も早くスムーズとなった。また、避難場所では児童が率先して点呼をとったり、整列したりすることができるようになり、リーダーの育成にもつながった。

避難訓練については毎回、避難訓練評価メモ及び児童の防災日記で振り返ることを通して課題を明確にし、次回の避難訓練につなげていった。

≪避難訓練 評価メモ≫

ランランタイム ①8:05 5月24日(木)		天気 晴れ	参加人数・欠席 児30人・教9人【欠1・チ1】
1	時間(3分00秒)	体	*早くから、歩く姿が多かった
2	集合の仕方・態度	徳	到着した児童から並ぶことができる 真剣に取り組めた 1回目にしてはよかった
3	主体的な動き・工夫	知	先頭の児童から点呼報告あり [到着した児童から並ぶことができる] 〇〇君が雑巾のことを伝えてくれた

計画→訓練→評価→改善

防災日記 「びっくりした」(1年)

ちなちゃんと、まあちゃんと、しょうきくとあずさちゃんと、わたしと、かずまくんで、学校にいきよったら、とつぜんひなんくんれんの音がして、びっくりしました。

ランドセルをかついでいたので、早くはしれませんでした。

でも、ちなちゃんが、手をひっぱってくれました。

早くはしれました。

ランドセルをおいてにげました。

いつもは、ランランタイムがあるのに、こんなじかんにひなんくんれんがあるとはおもえなかったです。



2 防災に関する学習

地震・津波・防災に関する学習を年間通して計画的に実施した。

【本年度の主な学習活動】

(1年) 校区探検

校区探検により、災害に備えた標識を見つけたり、避難道を歩いて確認したりする。



(2年・3年) 避難道・避難場所の確認

校区の避難道や避難場所を探しながら確認し、絵地図にまとめる。

(4年) 避難道・避難場所の改善点

車いす・高齢者体験や地域の方々への聞き取りを通して、避難道や避難場所の改善点を考える。



(5年・6年) 防災マップ・

ハザードマップ作成

地域の方々への昭和南海地震についての聞き取りや、災害シミュレーション活動を通して、地震に備えて今から準備しておくことや、地震発生時の対応について考える。

防災マップやハザードマップを作成し、地域に想定される津波被害についても理解を深める。



(たんぼぼ・ひまわり学級)

地震発生時の対応について学習する。大型紙芝居を他の学級と交流しながら作成する。



3 保護者・地域との連携
炊き出し訓練(飯盒炊爨)

1回目 6月26日

◎避難所で配給が滞った場合を想定して、自分たちで調理できるよう、常時に活躍できる人材を育てる。



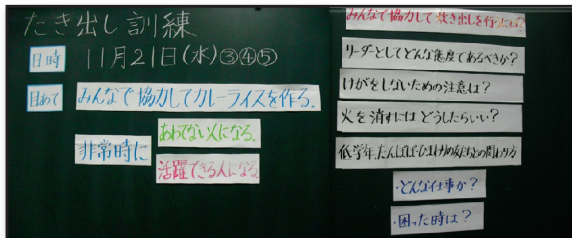
2回目 11月21日

- ◎みんなで協力してカレーライスを作る。
低学年→非常時にあわてない人になる。
高学年→非常時に活躍する人になる。

※リーダーの育成

リーダーの育成を目指して、事前に班長会を実施し、協力して炊き出し訓練を行うための注意点や留意点について考えさせ、リーダーとしての自覚を促した。

事前の班会や準備、当日の訓練等で、リーダーとしての役割を意識した態度や声掛けがみられ、協力しながら訓練を実施することができた。



IV 成果と今後の取組

1 成果と課題

◇様々な場面で想定しての避難訓練

- ・繰り返し避難訓練を行うことで、どんな時間帯・状況・条件でもスムーズに避難できるようになった。
- ・避難後、集合や点呼が自主的にできるようになった。
- ・短時間（2分15秒～4分32秒）で避難できるようになった。
- ・緊急地震速報・揺れの音、どちらの音でも敏感に反応することができ、机の下や落ちてこない・倒れてこない・移動してこない場所で、身を守ることができるようになった。
- ・友だちの動きをよく見るようになり、自

分の命・友だちの命を考えての感想が言えるようになってきた。

◇防災に関する学習

- ・地震津波についての学習が、発達段階に応じてできた。
- ・学習したことを自分のこととして考えられるようになった。
- ・真剣に学習に取り組むことができた。
- ・防災の視点を入れた教科学習に取り組むことができた。

◇保護者・地域との連携

- ・それぞれの学年で、避難道を確認し、地域や人を知る活動ができた。
- ・日々の学習や研究発表会等を通して、親子でも防災に関する会話ができるようになり防災意識が高まってきた。また、町・県内等への普及、啓発ができた。

（研究発表会県内参加者：約80名）

◇アンケート結果より

「地震などで避難した後に、家族と集合する場所を決めている。」

5月：6名 → 1月：21名

「あなた（あなたの家）は、地震に備えて何か準備をしている。」

5月：10名 → 1月：20名

- ・学校で（知識と体験）学習したことが、浸透しはじめている。
- ・子どもたちや保護者の防災意識が高まってきている。
- ・学校での学習や避難訓練等、取り組んでいることが、家庭に帰ってから話題にあがるようになってきている。

2 今後の課題

- ◆昨年度から自主的に取り組んでいる、様々な場面でドリル的に行ってきた避難訓練の継続・活用が必要である。
- ◆防災の視点を取り入れた効果的な防災学習の進め方・授業づくり・実践学習の研究がさらに必要である。
- ◆今後、地域の自主防災組織や避難計画等の防災活動と、学校で行ってきた避難訓練等の学習の成果をどうつなげていくか、地域・保護者・学校が一体となり、更なる連携の深化を図っていく必要がある。